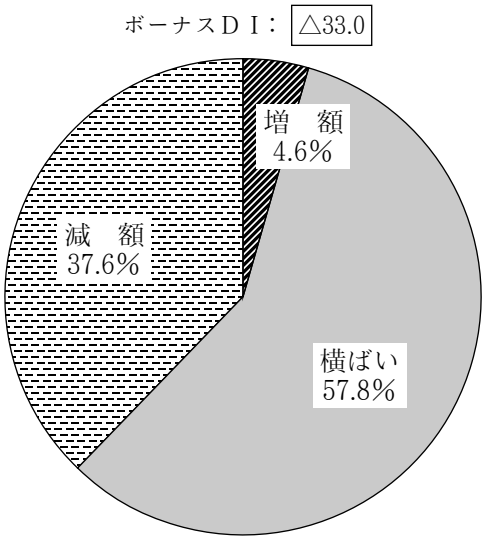
2020.12
No.206

調査レポート

2020年冬季
県内民間ボーナス支給見通し

－減額傾向が強まり、ボーナスＤＩは一段と低下－

冬季民間ボーナス支給見通し（全産業）



「第89回県内企業経営動向調査」から

山梨中央銀行

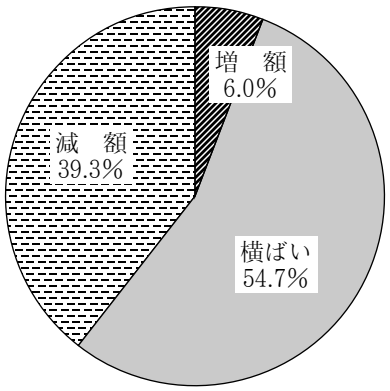
当行の第 89 回県内企業経営動向調査（10 月上旬実施、回答企業 313 社）によると、今冬のボーナス支給予定額は、昨冬の支給額に対して「増額」回答先割合が 4.6%（昨冬調査 7.4%）、「横ばい」回答先割合が 57.8%（同 80.5%）、「減額」回答先割合が 37.6%（同 12.1%）となった。

この結果、冬季のボーナスＤＩ（「増額」回答先割合－「減額」回答先割合）は、昨冬（△ 4.7）と比べて 28.3 ポイント低下の△ 33.0 となり、1977 年の調査開始以来、冬季としては 1998 年調査と並び、過去 2 番目に低い水準となった。このように、今冬のボーナスは、夏に続き厳しい状況が予想される。

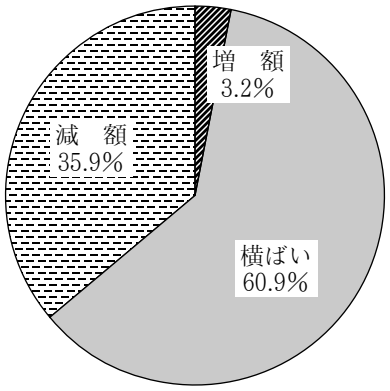
ボーナス支給に影響を与える要因のひとつである県内経営者の景況感は、今回実施した企業経営動向調査において、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う需要減退などの影響で大幅に悪化した。また、企業業績も、2020 年度上期の売上ＤＩ、収益ＤＩ（「増加」回答先割合－「減少」回答先割合）が 1977 年の調査開始以来

冬季民間ボーナス支給見通し

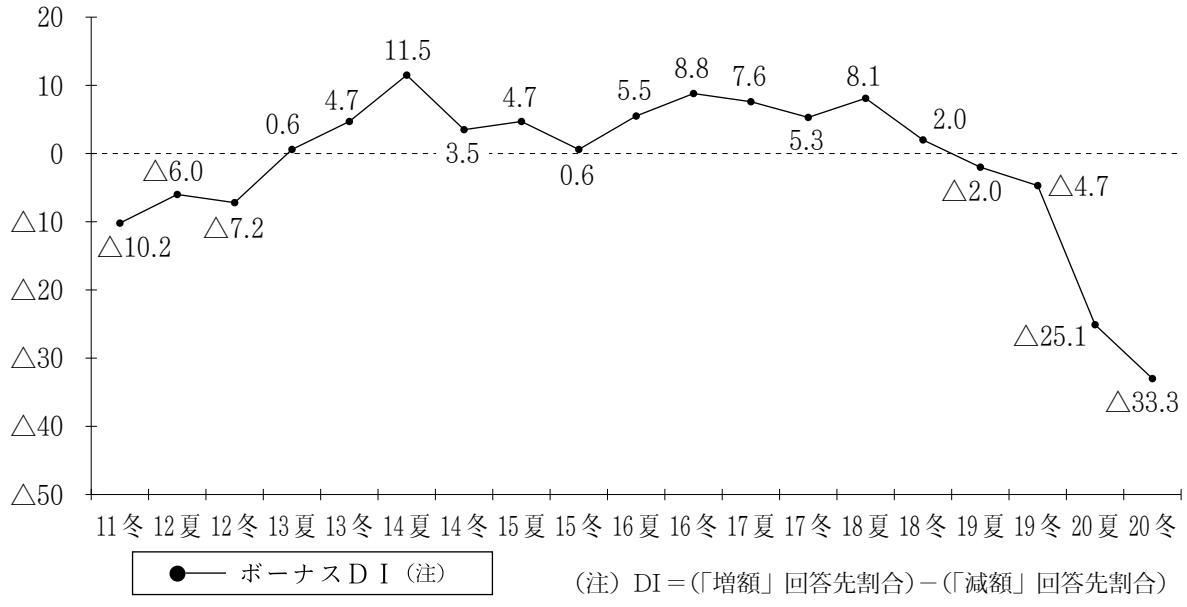
（製造業）　ボーナスＤＩ：△33.3



（非製造業）ボーナスＤＩ：△32.7



ボーナスＤＩの推移（全産業）



（注）DI＝（「増額」回答先割合）－（「減額」回答先割合）

過去最低となっており、中堅・中小企業を取り巻く環境が厳しさを増している様子が窺われる。先行きについても、幾分厳しさは和らぐものの、引き続き減収減益を見込む先が多くなっている。

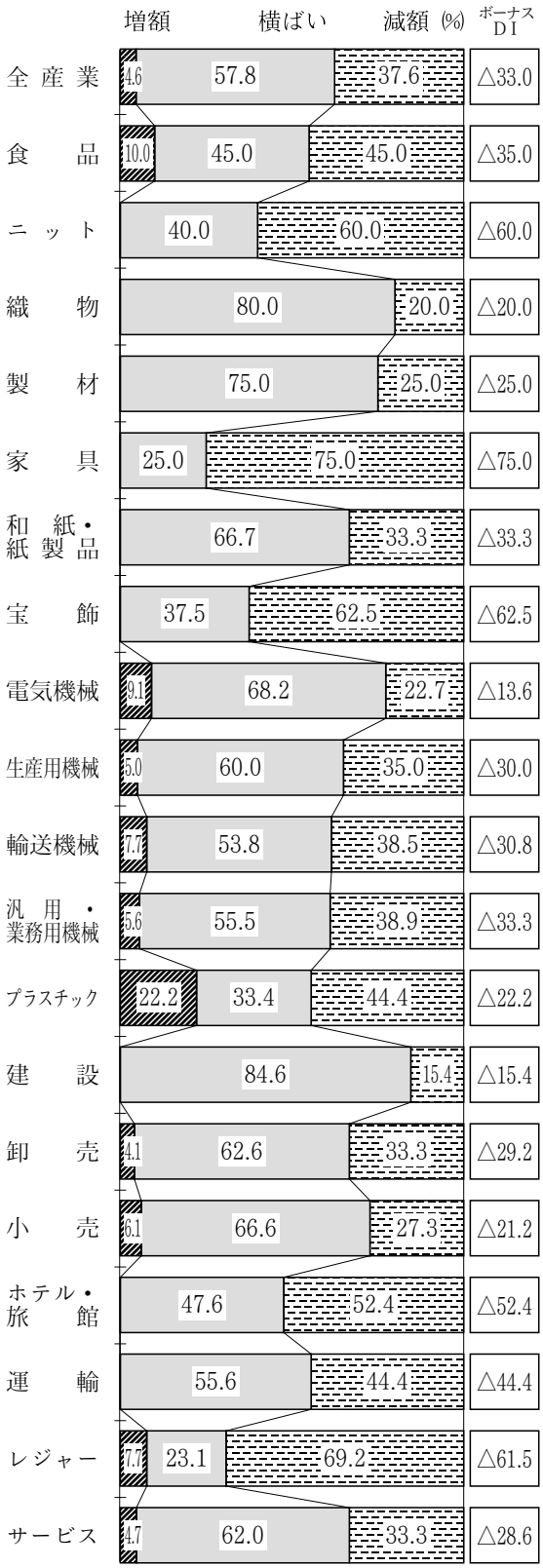
影響を与えるもうひとつの大きな要因である雇用情勢も、悪化を辿っている。企業経営動向調査において、雇用の充足感が 2011 年度上期調査以来 18 期ぶりに「過剰」先が「不足」先を上回ったほか、現状人員を維持しながらも新規雇用を抑えようとする姿勢が窺われる。また、有効求人倍率も、このところ 1 倍を下回る水準で推移している。

こうした企業業績や雇用情勢の悪化を背景に、ボーナス支給額を削減する動きが広範囲に広まったものと考えられる。

業種別にみると、製造業は、「増額」回答先割合が 6.0％（昨冬 9.3％）、「減額」回答先割合が 39.3％（同 17.3％）となった。この結果、ボーナスＤＩは△ 33.3 と、昨冬（△ 8.0）と比べて 25.3 ポイント低下し、4 期連続の「減額」超となった。このうち機械関連では、汎用・業務用、輸送、生産用、電気の全機械で「減額」超となった。機械関連以外でも、すべての業種が「減額」超となっており、特に家具で 7 割以上、宝飾、ニットで 6 割以上の先が減額を見込んでいる。

非製造業は、「増額」回答先割合が 3.2％（昨冬 5.4％）、「減額」回答先割合が 35.9％（同 6.8％）となった。この結果、ボーナスＤＩは△ 32.7 と昨冬（△ 1.4）と比べて 31.3 ポイント低下し 3 期連続の「減額」超となった。すべての業種が「減額」超となっており、特にレジャー、ホテル・旅館で減額と回答した先が多くなっている。

冬季民間ボーナスの業種別支給見通し



詳しくは山梨中央銀行の窓口または担当者にお問い合わせください。

● 発行／山梨中央銀行
● 編集/山梨中銀経営コンサルティング　〒400-0031 甲府市丸の内一丁目 20 番 8 号 TEL (055) 224－1032
山梨中央銀行 URL：https://www.yamanashibank.co.jp/

世界遺産
美しい富士山を未来へ